



津軽広域連合 連合だより

〒036-8276

弘前市大字樋の口町 260-4

TEL 0172-39-7200

FAX 0172-39-7201

Eメール tugarukoiki01@net.pref.aomori.jp

平成14年12月 第10号 発行/津軽広域連合

ホームページ <http://www.net.pref.aomori.jp/tugarukoiki/>

津軽広域連合では「ひと・まち知り隊」学習会をホームページ上で、2週間に一度開催しています。この学習会は、長い歴史の中で培われてきた津軽の文化を理解しつつ、現在の津軽で起こっている地域づくり・人づくりの動きを知ることにより、さらに新たな活力ある地域にしていくことを目的としています。「ひと・まち知り隊」学習会は、「つがる今昔物語」と「会いに行こうよ『津軽の名人・達人』」の2つのコーナーで構成されています。これまでの掲載内容について紹介しましょう。

つがる今昔物語

津軽地域の歴史やさまざまな話題についてご紹介しています。意外に知られていなかった津軽の伝説や文化的背景と、現在、津軽広域連合の圏域内で起こっている身近な地域づくりの動きから、古い津軽と新しい津軽の両方の姿を知ってください。

『津軽の歴史』

猿賀神社禰宜

津軽 承公 氏

『藤崎町の歴史散歩』

藤崎町教育委員会教育長

小笠原 睦男 氏

『地方自治における住民参加をめぐる』

青森県コミュニティアドバイザー - 石崎 宜雄 氏

『中世の里づくり』

浪岡町教育委員会生涯学習課

工藤 清泰 氏

『津軽今昔よもやまばなし』

弘前市企画課市史編纂担当

宮川 慎一郎 氏

会いに行こうよ「津軽の名人・達人」

「津軽の名人・達人バンク」登録者がコラムを執筆し、ボランティアの講師として活動してきたエピソード等、生の声をお伝えします。身近な名人・達人の活動を知ること、皆様も自発的に気軽にできる地域づくり、人づくり活動に取組んでみませんか。

『身近にいる僕から、中国の事を知りませんか?』

周 銘国 氏

『いろいろな博物館があるんですよ』

海老原 巽 氏

『様々な趣旨に合った料理指導や栄養指導をします』

福土 るみ子 氏

『歴史や風俗の面白いエピソード、たくさんあります』

柴田 重男 氏

『健康づくりのための運動について』

須藤 てつお 氏

今後、渋谷龍一氏、北原啓司氏が執筆を予定しております。また、ここで紹介したのは、ほんのごく一部です。ほかにも有意義なコラムがたくさんありますので、ぜひ下記アドレスまでアクセスしてください。そして、あなたの感想をカキコミしてください。

<http://www.net.pref.aomori.jp/tugarukoiki/>

津軽広域懇談会

津軽広域連合では、津軽地域をネットワークした新しい事業を創造し、地域全体の活性化を図るため、「津軽広域懇談会」を設け、圏域内14市町村と学識経験者から選出された15名の委員の方々からご提言をいただいています。これまでの会議では、津軽地域ふるさと市町村圏計画の広域活動指針（期間：平成11年度～15年度）に沿ったソフト事業を実施する上での具体的な方法等を中心にご検討いただきました。積極的に出されたアイデアの中から、いくつかの事業が実現しています。

懇談会から生まれたソフト事業

- ・人材育成セミナー開催事業
- ・市町村職員広域行政研修派遣事業
- ・津軽広域懇談会開催事業
- ・津軽広域連合キャッチフレーズ・ロゴマーク募集事業
- ・つがる観光ラリー事業
- ・津軽広域連合ホームページ開設事業
- ・津軽の名人・達人バンク開設事業
- ・環境整備学習会開催事業
- ・津軽おはなし交流会開催事業
- ・ホームページリニューアル事業
- ・とっておきの津軽募集事業

広域連合のロゴマークは、これ



にしよう

県や市町村と同じことをやっても無意味。隙間をうめる発想をすることが必要だ

一から作るよりは既存のものを活用したり結びつけることで広域の利用につなげたほうがいい。

事業の財源である基金の運用益が少なく、当初予定した事業の実施は難しい。事業項目をしばっていかないと...

情報収集、情報発信をもっと工夫しないといけない。

名人・達人バンクの利用促進のためには、利用者の自主性に任せきりでなく、総合的学習との関連から学校・公民館等との連携をはかり、そしてもっとPRすることが必要だと思う。

ソフト事業が、地域住民のニーズの多様化・高度化に対応する上で不可欠。

今後の予定 平成15年度は、圏域の進むべき発展方向と方策について、一体的な振興整備を図るために策定している「津軽地域ふるさと市町村圏計画」の見直しをすることとなっています。

併せて、ソフト事業計画の指針である「広域活動指針」

を津軽広域懇談会において新たに策定します。

住民の代表である委員の意見が施策に反映される機会となります。

また、単年度ごとの事業計画についても、引き続きご提言をいただいております。

懇談会委員名簿

津軽広域懇談会委員については、ソフト事業並びに津軽広域連合の事業全体の方向性等に対して、幅広いご意見をいただくことを念頭に置いた選出方法を心がけ、人材育成、地域間交流、教養文化活動などの分野から、市町村の推薦をもって各市町村1名の委員を選出しています。

学識経験者としての委員には、弘前大学教育学部北原啓司助教授に就任いただき、現在も座長として意見の集約をお願いしています。

(平成10～11年度)

弘前市/篠崎羊子氏、黒石市/長谷川勇三氏、平賀町/武田英子氏、浪岡町/松山悦子氏、板柳町/佐野毅氏、大鰐町/塚本義則氏、岩木町/村元千鶴子氏、藤崎町/幸田知子氏、尾上町/古川陽太郎氏、田舎館村/工藤嘉浩氏、常盤村/三浦武昭氏、西目屋村/工藤孝雄氏、碓ヶ関村/岡部実氏、相馬村/溝江トク氏
学識経験者/北原啓司氏

(平成12～13年度)

弘前市/吉沢隆治氏、黒石市/福土収蔵氏、平賀町/村上紀子氏、浪岡町/松山悦子氏、板柳町/佐川克己氏、大鰐町/塚本義則氏、岩木町/齋藤浩氏、藤崎町/小笠原雅子氏、尾上町/古川陽太郎氏、田舎館村/高橋勝氏、常盤村/三浦武昭氏、西目屋村/平山智満氏、碓ヶ関村/稲葉義行氏、相馬村/成田千枝氏
学識経験者/北原啓司氏

(平成14～15年度)

弘前市/吉沢隆治氏、黒石市/福土収蔵氏、平賀町/小野敬子氏、浪岡町/田中洋子氏、板柳町/長内良蔵氏、大鰐町/坂本府隆氏、岩木町/田澤昭次郎氏、藤崎町/白崎むつ子氏、尾上町/小田桐幸夫氏、田舎館村/齋藤富士子氏、常盤村/池田昭子氏、西目屋村/齋藤弘氏、碓ヶ関村/稲葉義行氏、相馬村/成田千枝氏
学識経験者/北原啓司氏

津軽の 名人・達人 バンク

津軽広域連合では、平成13年度から人材バンクを設置し、広域連合を構成する14市町村の地域の皆さんと力をあわせてより良い地域にしていくため、様々な知識、経験、技術をお持ちの方にご登録いただいております。登録者の方々には、生涯学習やまちづくりなどについてこれから学習しようとする人たちやグループに対して、ご支援をいただいております。登録者の受付は随時行っておりますので、興味のある方はご一報ください。

また、当広域連合が名人・達人派遣事業として今年度行った事例をご紹介します。

(内 容)	(名人・達人氏名)
「牛乳パックからはがきづくり」	斉藤 サツ子 氏
「健康講座～食べて、笑って、健やかに」	今 充 氏
「たたき染の指導」	斉藤 サツ子 氏
「親子で楽しくエアロビック」	阿保 真由美 氏
「講演～津軽の雪」	佐藤 清一 氏
「コーヒーを楽しむ講座」	成田 専蔵 氏
「津軽民謡教室」	工藤 金四郎 氏
「マジック教室」	櫛引 清美 氏
「ミニコンサート」	柳田 光祥 氏



介護認定審査会 委員代表者協議会



11月8日、ホテルニューキャッスル「松の間」において、介護認定審査会会長、会長職務代理者をはじめ、審査分会長など29名が集まり、平成14年度第1回津軽広域連合介護認定審査会委員代表者協議会が開催されました。

この会議では、平成15年度から一次判定(コンピュータによる判定)ソフトが改訂されることになり、その前段階として実施されるモデル事業の概要や、来年度の審査会の組織体制及びスケジュール等について、事務局から説明があったのち、各委員から意見をもらいながら、協議していただきました。

介護認定審査会による 審査判定の状況

14年度の上半期は、各市町村からの審査依頼件数が月1,500から1,900件台と安定しており、昨年度上半期のように審査依頼件数が集中する(13年度は5月、6月に約2,500件)こともなかったため、審査判定の遅れも特になく、判定業務は順調に行われています。

上半期の審査判定件数は、10,454件で、昨年

度の同時期と比較すると1,055件少なくなっています。

審査案件の内訳としては、新規案件22%、更新案件76%、区分変更案件2%となっています。

審査判定結果の内訳は下表のとおりですが、月平均では、審査会が43回行われ、1,742件の審査件数が処理されています。

今後も審査依頼件数は特に集中することはないと予想されますが、予想件数を随時精査しながら、審査判定に遅れが出ることをないよう、より一層事務の迅速化に努めてまいります。

介護認定審査会審査判定状況

	平成14年度 (4~9月)	割合	平成13年度 (4~9月)	平成13年度 (10~3月)
審査分会開催数(回)	255		268	231
審査件数(件)	10,454	100.0%	11,509	9,110
一次判定どおり(件)	7,781	74.4%	8,614	6,725
要介護度変更(件)	2,643	25.3%	2,865	2,353
再調査(件)	30	0.3%	30	32